

第1学年 第2章「文字と式」単元指導構想図

- 整数の性質（小5）
- 文字を用いた式（小6）
- 正の数，負の数（中1）

• 文字のもつ一般性について理解し，数量の関係や法則などを文字を用いた式に表したり，読み取ったりすることを通して，文字を用いた式のよさを実感させる。

- 1次方程式（中1）
- 式と計算（中2）
- 多項式（中3）
- 1次不等式（数I）

<学びに向かう力，人間性等>

- 数量の関係や法則などを数や言葉の式に表してその意味を読み取ったり，数を代入して調べたりすることで文字のもつ一般性を理解する。
- 文字を用いた式に表したり，読み取ったりすることで思考過程を表現できるなどの良さを実感する。
- 文字を用いた式の処理を数の世界と関連付けて考える。

数学的な見方・考え方

- 単純化して考える。
- 問題場面の数量のすべての場合をまとめて表すために，文字を用いる。
- 正負の数の加減の混じった式と同じように項の和とみて考える。
- 表す数量が同じならば，求め方が異なっても，簡単にするとすべて同じ式になる。
- 具体的な個数で考える。
- まとまりに着目する。

<知識及び技能>

- 式をかくときの約束
- 文字を用いた式の積，商の表し方
- 1次式の意味
- 1次式，項，係数
- 文字を用いた式は，数量を求める計算の仕方
を表しているとともに，計算した結果の数量
も表していること
- 等式と不等式の意味
- 等式，不等式，左辺，右辺，両辺

<思考力，判断力，表現力等>

- 文字を用いて，様々な数量や法則を式で表すことができる。
- 文字を用いた式の数量や法則を読み取ることができる。
- 文字に数を代入し，式の値を求めることができる。
- 1次式と数との乗法，除法の計算ができる。
- 1次式の加法，減法ができる。

第1学年 第2章「文字と式」単元指導計画

時	学習内容	知識・技能	思・判・表	主体的な態度	評価方法（記録）	指導に生かす評価（行動観察）
1	文字を使った式	知①				・文字を使った式の意味
2	数量を表す式	知①				・数量を、文字を使った式で表す
3	式を書くときの約束（1）	知②				・文字を使った式の積、商の表し方
4	式を書くときの約束（2）	知②				・約束にしたがった式の表し方
5	式による数量の表し方	知②				・約束にしたがっていろいろな数量を式で表す
6	式の値	知②			知②：小テスト	・文字の値、式の値の意味、式の値を求める
7	式の表す意味		思②	態①	思②態①：ノート	・式が表している数量や数の意味
8	たしかめよう（練習）	知①②				
9	1次式とその項		思①		思①：ノート	・項、係数、1次式の意味、簡単な1次式の計算
10	1次式と数との乗法	知②				・1次式と数との乗法
11	1次式を数でわる除法	知②				・1次式を数でわる除法
12	1次式の加法、減法	知③			知②③：小テスト	・1次式の加法、減法、いろいろな1次式の計算
13	たしかめよう（練習）	知①～③				
14	文字と式の利用		思②	態①	思②態①：ノート	・文字を使った式で表して説明する
15	等式と不等式	知④				・等式、不等式の意味、等式、不等式を使った表現や読み取り
16	1章をふり返ろう	知①～④	思①②		知①～④思①② 単元テスト	

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文字を使うことの必要性和意味を理解すること。 ② 文字を使った式における乗法と除法の表し方を理解すること。 ③ 簡単な1次式の加法と減法の計算をすること。 ④ 数量の関係や法則などを文字を使った式に表すことができることを理解し、それらを式に表したり読み取ったりすること	① 具体的な場面と関連づけて、1次式の加法と減法の計算の方法を考え、表現すること。 ② 数量の関係を文字を使った式で表したり、式の意味を読み取ったりすること。	① 文字を使うことよさに気づいて粘り強く考え、文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、文字を使った式を利用して、問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりする。